

第 29 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 3 月 23 日 (木) 13:30~19:30  
場 所 西宮市大学交流センター  
出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、  
浅見、伊藤、草薙、酒井、谷田、松本(俊)、山仲  
(河川管理者) 渡邊、松本、前川、西村、合田  
(河川整備課) 玉置  
(事務局) 黒田、前田、植田

内 容(協議結果)

1 河道対策及び貯留施設の検討

協議した結果、次の事項を確認した。

「河道対策 5 つのメニュー(河床掘削、低水路の拡幅等)」に対する集約に基づき、本川下流区間で実現可能な河道対策の範囲(基本方針レベル)を河川管理者は検討し、報告する。

治水安全度向上に要する時間的な問題、実現性、コスト、環境・社会影響等を踏まえて、洪水調節施設の検討を行う。

新規ダムについて、放流口が詰まらないかどうか、計画規模を超える洪水に対する堤体の安全性、試験湛水時の影響等について整理する。

新規ダム(基本方針ベース)について、1/100に満たない降雨及び1/100を超える降雨の効果量・流量を試算する。

新規ダム(整備計画ベース)について、整備計画目標流量に対応した放流口を想定し、規模別(例えば1/10~1/100)の効果量・流量を試算する。

河川管理者は、ワーキングチーム会議で、河川整備基本方針の位置づけと河川整備計画との関係等について報告する。

河川管理者は、環境影響評価概要書の審査時(H11~12)に、武庫川ダムが他の治水対策と比較して妥当とした根拠資料をWT会議に提出する。

整備計画で検討している河道対策(本川下流区間)について、30年間に投資できる事業費を踏まえて、実現可能な河道対策を検討する。

河川管理者は、次回WT会議で、浸水想定区域図の説明を行う。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

河道対策  
貯留施設

(2) 今後の日程(開催日時)

第 30 回 3 月 29 日(水) 13:30~  
第 31 回 4 月 7 日(金) 13:30~  
第 32 回 4 月 11 日(火) 13:30~  
第 33 回 4 月 19 日(水) 17:30~  
第 34 回 4 月 25 日(火) 13:30~  
第 35 回 5 月 11 日(木) 17:00~

当日配付資料

資料 1 第 37 回武庫川流域委員会 治水分担総括発言の整理

資料 2 意見書「新規ダムの検討項目と評価について」(伊藤委員)

参考資料 1 総合治水対策の効果量(試算)